

木造校舎の改修工事(1)

今は昔、学校といえば木造校舎で、しかも本物の製材の木で造られていた時代が確かにあった。いま流行りの内部造作用の合成木材とは違う、製材された木を用いているから渡り廊下や外壁なども木で造ることができたわけだ。昭和40年代はまだまだ木造校舎が残っていて、仙台では女優の若尾文子(巨匠黒川紀章の伴侶)が通ったことで知られる宮城県第二女子高等学校(旧東華女学校)には作法室なる畳の部屋もあったという。私が入学した高校も木造だったが在学中に鉄筋コンクリート4階建てに建て替えられてしまった。以来、現実には木造校舎に接することはなくなったが、時たま夢の中で出会えるようになった。それは父の転勤で2年ほど暮らした気仙沼市の気仙沼小学校九条分校の校舎で、立派な玄関もなく1年から3年までの教室が3つ並んでいるだけの実に小さなものだったが、学芸会の時は教室を隔てていた壁が取り払われて、魔法のようにひとつの大きな空間になった。校長先生は三浦長兵衛先生と言って3年の担任を兼ね、校舎の横にある建物に住んで、いつもまるで用務員さんのように立ち働いていた。この九条分校に通ったのは入学からわずか半年間だけだった。父の転勤で分校を去ることになった日、教室を後にして校門まで来て校舎を振り返ったとき、みんなが窓から身を乗り出して手を振っていた、その時の光景が時々夢に出てきてくれるのだ。

そんな思いが通じたのか2015年、木造校舎の改修工事に関わらせてもらえることになった。その校舎は昭和2年に青森県立の旧制中学校として建てられ、45年を経た時点で、鉄筋コンクリートの校舎を新築したために不要になったものを、私立高校が買い受けて移築したものだ。新築から数えて91年経った今も勿論現役で使われており、更なる100年に向けて耐震と断熱の改修計画が進められていた。

工事中、旧制中学時代にこの校舎で学んだ高齢の方々がバスで見学に来られて当時を懐かしんでおられたという。また、校舎を払い下げた高等学校の校長先生も見に来られ、払い下げの時点で新築した鉄筋コンクリートの校舎が、45年を経て今再び建て替えの時期にきていると語っていたとのことであった。



新築から 90 年、移築から 45 年を経た木造校舎(2017 年夏)

この改修計画に参加させてもらうにあたっての私の仕事は、主に断熱改修とトイレの設計であった。しかし、初回打合せ時に学校から焦眉の課題として示されたのは、長年悩まされているキツツキへの対応という難題だった。

(つづく)